

No.183

令和2年8月27日

【発行】

豊橋市立青陵中学校 校長室

t-asai-hideo@toyohashi.ed.jp

# Rising Sun



## 忍び寄る“コロナの影”

7月は「もう勘弁してよ」というくらい雨が降り続けました。ところが、8月1日に梅雨が明けてからというもの、気温はうなぎのぼりで上昇し、雨はからっきし降らなくなってしまいました。時折思い出したかのように大粒の雨は降るものの、それは局地的で、しかも短時間。まさに「焼け石に水」のような降雨です。おかげで、我が家の畑はカリカリに干上がり、サトイモをはじめとする農作物が相当のダメージを受けてしまいました。本来ならば青々としている夢広場や躍進の塔横の芝生も同じようにダメージを受けていますよね。7月末にはほぼ満水だった東三河の水がめ宇連ダムの貯水率も、51.9%にまで急落してしまいました(8.26現在)。降ってほしいときには降らず、降ってほしくないときに降るのが「雨」ということを実感している昨今です。

さて、新型コロナウイルスについてです。一旦収束しかけたかに思えた東京都の感染者数が、「夜の街」(主に接客を伴う飲食店やカラオケ店)を中心に増加に転じたのが6月下旬のことです。東京から遅れること約2週間、愛知県でも名古屋市を中心に感染者数が急増しました。数だけを見れば3月から4月にかけての第一波のときの感染者数を上回っていました。そして、愛知県独自の「緊急事態宣言」が発出されたのが8月6日。この間、豊橋市でも相当数の感染者が報告されました。幸いなことに、市内の小中学生や教職員の感染報告はありませんが、決して対岸の火事ではありませんし、他人事と考えるフェーズでももちろんありません。誰がいつ感染してもおかしくない状況です。正常性バイアスをはたらかせている場合じゃありません。県独自の緊急事態宣言は8月24日に解除されましたが、大村知事は引き続き、「厳重警戒の段階」としたうえで、5、6人以上による会食や宴会の自粛、三重・岐阜両県以外の県をまたぐ不要不急の移動の自粛を呼びかけています。

今後も「マスクの着用」「3密の回避」「手洗い・手指消毒の励行」「ソーシャル・ディスタンスの保持」等、感染予防対策を講じていかなければならないのはもちろんのことですが、感染よりも恐れているのは、感染者への偏見や差別です。誹謗や中傷です。感染経路不明が50%を超え、もはや市中感染が広まっていると言ってもおかしくない状況なのですから、誰がいつ感染しても不思議ではないのです。特別な人や特別な行動をした人が感染するわけではありません。文字どおり「明日は我が身」なのです。

昨日の日報裏面の市教委からのおたより「ひびき」で紹介されていた日本赤十字社のHPに掲載されている「ウイルスの次にやってくるもの」という動画を見ました。コロナ禍にあって私たちはなにを考えどう生活していったらよいのか、ヒントを与えてくれます。中学生にとってもきっと役に立つ動画に仕上がっていると思います。生徒にもぜひ勧めてみてください。「青陵のミカタ」のテーマとして取り上げてもおもしろそうです。関連した動画もいくつか掲載されていますので、話のネタに見ておくのもよいかもしれません。

以下は、「ひびき」にも載っていた学校教育に携わる私たち教職員の心得です。しっかりと心に刻んでおいてください。

- ① 偏見や差別につながるような言動に対しては、断じて許さないという毅然とした態度で対応する。
- ② 子ども・保護者等から初期症状について相談・連絡があった場合、丁寧に対応する。
- ③ 個人情報の管理を徹底するとともに、罹患した場合であっても、いたずらに感染者が特定されることのないよう、十分配慮する(学校が保護者などから知り得た「家庭内感染の状況」や「PCR検査についての情報」について絶対口外しない)。

